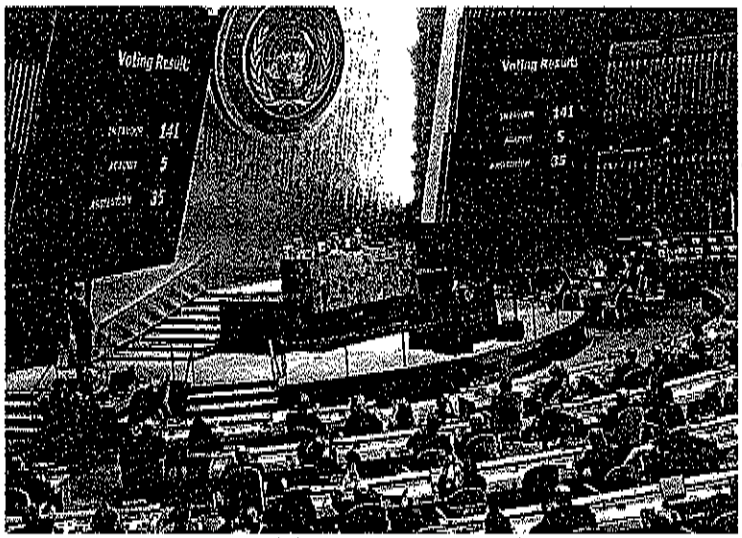
3/4 朝日

ロシア非難 141カ国賛成

国連決議「即時撤退を」

ウクライナに侵攻したロシアに対し、国際社会が大きな「ノー」を突きつけた。193カ国からなる国連総会が2日、ロシアを非難し、ウクライナからの即時撤退を求める決議案を141カ国の賛成多数で採択した。反対はロシアなど5カ国だけだった。

この日は、安全保障理事会として40年ぶりに要請した「緊急特別会合」の3日目。投票前に発言した国連大使らは最終的に計122人に上り、ほとんどがロシアを名指しで非難した。



米ニューヨークの国連本部で2日、ロシアを非難する国連総会決議案の採決結果を映し出すモニター＝ロイター

2面＝侵攻1週間
5面＝決議要旨
7面＝デフォルト懸念
12面＝サッカー界では
31面＝署名4万人

その中に、ミャンマーのチョーモートゥン大使がいた。国軍によるクーデターが起きる前に着任。国軍からは「解任」を告げられたが、なお大使として、国際社会で国軍批判を続ける。

「ウクライナの人びとの苦しみを、他の国より理解し、分かち合っている」

国軍はロシア支持を打ち出しているが、大使の権限で、決議案に強い賛意を示す「共同提案国」96カ国に名を連ねた。

米国のトーマスグリーンフィールド大使も壇上に立ち、「国連は近現代史で最も厳しい局面に立たされている」と強調。「国連になんらかの目的があるとすれば、それは戦争を防ぎ、非難し、止めることです。それが、ここにいる私たちの仕事です」と訴えた。

投票の時を迎え、総会議場のモニターに、各国の票が映し出された。ロシアとともに反対したのは、ベラルーシ、北朝鮮、エリトリア、シリアだけ。中国やインドなど35カ国は棄権票を投じ、ベネズエラなど12カ国は票を入れなかった。

議場では各国代表が立ち上がり、40秒間、拍手を響かせた。

豪州のファイフィールド大使はウクライナ市民らに向けて言った。「生は死に勝ち、光は闇に勝つだろう」

決議に法的拘束力はない。ただ、国際社会の中でロシアの孤立は浮き彫りになった。採決後、ウクライナのキスリツァ大使は「国連はまだ生きている」と語った。ただ、硬い表情は崩さなかった。「これは始まりにすぎない。投票して終わりではなく、投票自体が目的でもない」

（ニューヨーク＝藤原学思）